エネルギー教育コンテンツ
「THE POWER OF ELECTRICITY　～電気の力で、未来をつなぐ～
File.006　エネルギー×持続可能な水産業　～陸上養殖～」の公開について

2024 年 12 月 25 日
電気事業連合会

電気事業連合会（以下「電事連」）は、エネルギー教育コンテンツ「THE POWER OF ELECTRICITY　～電気の力で、未来をつなぐ～　File.006　エネルギー×持続可能な水産業　～陸上養殖～」の動画を本日、エネルギー・環境教育支援サイト「ENE-LEARNING（エネラーニング）※1」および「電事連 YouTube チャンネル※2」に公開しました。

【本動画 URL】https://www.youtube.com/watch?v=lPC8m9fxEHQ

本動画では、電気を活用し、陸上の施設で魚を養殖する「陸上養殖」を紹介し、陸上養殖について学ぶことを通じて、海の環境問題や食の安全、安定供給、これからの水産資源に関する課題について考えます。また、エネルギーの専門家である金田武司氏※3 の解説により SDGs との関わりについても学ぶことができます。

なお、本動画にあわせて、小学校 5 年生社会科、6 年生理科の単元で活用できるワークシートや指導案を「ENE-LEARNING」に公開していますので、教育関係者の皆さまにおかれましては学校の授業などでぜひご活用ください。

電事連は、未来を担う次世代層をはじめ、多くの皆さまにエネルギー問題について考えていただけるよう、動画やプログラミング教材など、さまざまなコンテンツを制作し、「ENE-LEARNING」や「電事連 YouTube チャンネル」で公開しておりますので、あわせて、ぜひご覧ください。

※1：「ENE-LEARNING」は、電事連が制作した教材をはじめ、エネルギーや環境に関する授業を行うために必要な情報を集約した教育支援ポータルサイトです。
URL：https://fepc.enelearning.jp/

※2：「電事連 YouTube チャンネル」
URL：https://www.youtube.com/@fepcchannel

※3：金田武司氏
株式会社ユニバーサルエネルギー研究所 代表取締役社長。
東京工業大学大学院総合理工学研究科エネルギー科学専攻博士課程修了、工学博士。
1990 年三菱総合研究所入社。同社エネルギー技術研究部先進エネルギー研究チームリーダー兼次世代エネルギー事業推進室長プロジェクトマネージャーなどを務め、2004 年ユニバーサルエネルギー研究所を設立。国内の学会・政府・自治体の各種委員など公職を歴任する。

＜ご参考＞過去の THE POWER OF ELECTRICITY　～電気の力で、未来をつなぐ～

「THE POWER OF ELECTRICITY　～電気の力で、未来をつなぐ～」では、私たちが普段何気なく利用している身近な場所・施設の中で活用されている“電気”を紹介して、さまざまな社会の課題と電気のつながりを知り、多様な視点で地球の未来を考え、そして SDGs の達成のために自分たちにできることを考えるヒントになりうる動画をワークシート・指導案とともにご用意しておりますので、ぜひご活用ください。

URL:https://fepc.enelearning.jp/teaching/thepowerofelectricity/

File.001「エネルギー×地球温暖化　～水族館～」
水族館で飼育している生き物たちの環境を維持する工夫や、ヒートポンプを活用した省エネルギーの取り組みなどを紹介し、水族館の生き物を通じて、地球温暖化問題について考えます。

File.002「エネルギー×食料の安定供給　～野菜工場～」
LED 照明を活用して安心・安全な野菜を生産する野菜工場を紹介し、野菜工場で生産される野菜を通じて、日本だけでなく世界が抱える食料問題について考えます。

File.003「エネルギー×水の循環　～下水処理場～」
日常生活で生じる排水を処理する下水処理場と電気の関わりや、下水処理の際に生じる汚泥を有効利用する取り組みなどを紹介し、水の循環の仕組みを通じて下水処理場の取り組みを学ぶことができます。

File.004「エネルギー×暮らしと産業を支える港　～コンテナターミナル～」
貿易や災害時の輸送拠点として重要な港（コンテナターミナル）を電気で動かすこと（電動化）のメリットなどを紹介し、電動化された港のシステムを通じて、環境を守る取り組み、災害への対策などを学ぶことができます。

File.005「エネルギー×環境にやさしい交通　～電気バス～」
電気を動力源として走行時に排気ガスを出さない「電気バス」を紹介し、電気バスによって私たちの暮らしや環境がどのように変わっていくのか、走るだけではない電気バスの取り組みを学ぶことができます。

以　上